

第72号議案

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例を別紙のように定める。

令和2年11月30日提出

芦屋市長 伊藤 舞

提案理由

対象火気設備等の位置，構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令の一部改正に伴い，急速充電設備の全出力の上限を拡大するとともに，急速充電設備の設置に係る規定を整備するため，この条例を制定しようとするもの。

芦屋市条例第 号

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例

芦屋市火災予防条例（昭和48年芦屋市条例第28号）の一部を次のように改正する。

次の表中下線又は太枠の表示部分（以下改正前の欄にあつては「改正前部分」と、改正後の欄にあつては「改正後部分」という。）については、次のとおりとする。

- (1) 改正前部分及びそれに対応する改正後部分が存在するときは、当該改正前部分を当該改正後部分に改める。
- (2) 改正前部分のみ存在するときは、当該改正前部分を削る。
- (3) 改正後部分のみ存在するときは、当該改正後部分を加える。

改正後	改正前
<p>(燃料電池発電設備)</p> <p>第10条の2 屋内に設ける燃料電池発電設備（固体高分子型燃料電池，リン酸型燃料電池，熔融炭酸塩型燃料電池又は固体酸化物型燃料電池による発電設備であつて火を使用するものに限る。第3項及び第5項，第19条の2並びに第47条第11号において同じ。）の位置，構造及び管理の基準については，第3条第1項第1号（アを除く。），第2号，第4号，第5号，第7号，第9号，第17号（ウ，ス及びセを除く。），第18号及び第18号の3並びに第2項第1号，第13条第1項（第7号を除く。）並びに第14条第1項（第2号を除く。）の規定を準用する。</p> <p>2～5 (略)</p> <p>(急速充電設備)</p> <p>第13条の2 急速充電設備（電気を設備内部で変圧して，<u>電気自動車等</u>（電気を動力源とする自動車等（道路交通法（昭和35年</p>	<p>(燃料電池発電設備)</p> <p>第10条の2 屋内に設ける燃料電池発電設備（固体高分子型燃料電池，リン酸型燃料電池，熔融炭酸塩型燃料電池又は固体酸化物型燃料電池による発電設備であつて火を使用するものに限る。第3項及び第5項，第19条の2並びに第47条第10号において同じ。）の位置，構造及び管理の基準については，第3条第1項第1号（アを除く。），第2号，第4号，第5号，第7号，第9号，第17号（ウ，ス及びセを除く。），第18号及び第18号の3並びに第2項第1号，第13条第1項（第7号を除く。）並びに第14条第1項（第2号を除く。）の規定を準用する。</p> <p>2～5 (略)</p> <p>(急速充電設備)</p> <p>第13条の2 急速充電設備（電気を設備内部で変圧して，電気を動力源とする自動車等（道路交通法（昭和35年法律第105号）</p>

改正後	改正前
<p>法律第105号)第2条第1項第9号に規定する自動車又は同項第10号に規定する原動機付自転車をいう。<u>第12号において同じ。</u>)をいう。以下この条において同じ。)に充電する設備(全出力20キロワット以下のもの及び全出力<u>200キロワット</u>を超えるものを除く。)をいう。以下同じ。)の位置、構造及び管理は、次に掲げる基準によらなければならない。</p> <p>(1) <u>急速充電設備(全出力50キロワット以下のもの及び消防長又は消防署長が認める延焼を防止するための措置が講じられているものを除く。)</u>を屋外に設ける場合にあつては、建築物から3メートル以上の距離を保つこと。ただし、<u>不燃材料で造り、又は覆われた外壁で開口部のないものに面するときは、この限りでない。</u></p> <p>(2) (略)</p> <p>(3) (略)</p> <p>(4) (略)</p> <p>(5) 充電を開始する前に、急速充電設備と電気自動車等との間で自動的に絶縁状況の確認を行い、絶縁されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(6) 急速充電設備と電気自動車等が確実に接続されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(7) 急速充電設備と電気自動車等の接続部に電圧が印加されている場合には、当該接続部が外れないようにする措置を講ずること。</p> <p>(8) (略)</p> <p>(9) (略)</p> <p>(10) (略)</p> <p>(11) (略)</p> <p>(12) (略)</p>	<p>第2条第1項第9号に規定する自動車又は同項第10号に規定する原動機付自転車をいう。以下この条において同じ。)に充電する設備(全出力20キロワット以下のもの及び全出力<u>50キロワット</u>を超えるものを除く。)をいう。以下同じ。)の位置、構造及び管理は、次に掲げる基準によらなければならない。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) (略)</p> <p>(3) (略)</p> <p>(4) 充電を開始する前に、急速充電設備と<u>電気を動力源とする自動車等</u>との間で自動的に絶縁状況の確認を行い、絶縁されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(5) 急速充電設備と<u>電気を動力源とする自動車等</u>が確実に接続されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(6) 急速充電設備と<u>電気を動力源とする自動車等</u>の接続部に電圧が印加されている場合には、当該接続部が外れないようにする措置を講ずること。</p> <p>(7) (略)</p> <p>(8) (略)</p> <p>(9) (略)</p> <p>(10) (略)</p> <p>(11) (略)</p>

改正後	改正前
<p>(13) <u>コネクタ（充電用ケーブルを電気自動車等に接続するための部分をいう。以下この号において同じ。）について、操作に伴う不時の落下を防止する措置を講ずること。ただし、コネクタに十分な強度を有するものにあつては、この限りでない。</u></p> <p>(14) <u>充電用ケーブルを冷却するため液体を用いるものにあつては、当該液体が漏れた場合に、漏れた液体が内部基板等の機器に影響を与えない構造とすること。また、充電用ケーブルを冷却するために用いる液体の流量及び温度の異常を自動的に検知する構造とし、当該液体の流量又は温度の異常を検知した場合には、急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。</u></p> <p>(15) <u>複数の充電用ケーブルを有し、複数の電気自動車等に同時に充電する機能を有するものにあつては、出力の切替えに係る開閉器の異常を自動的に検知する構造とし、当該開閉器の異常を検知した場合には、急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。</u></p> <p>(16) <u>急速充電設備のうち蓄電池を内蔵しているものにあつては、当該蓄電池について次に掲げる措置を講ずること。</u> ア （略） イ <u>異常な高温とならないこと。</u> ウ <u>温度の異常を自動的に検知する構造とし、異常な高温又は低温を検知した場合には、急速充電設備を自動的に停止させること。</u> エ <u>制御機能の異常を自動的に検知する構造とし、制御機能の異常を検知した場合には、急速充電設備を自動的に停止させること。</u></p> <p>(17) （略） (18) （略）</p>	<p>(12) <u>急速充電設備のうち蓄電池を内蔵しているものにあつては、当該蓄電池について次に掲げる措置を講ずること。</u> ア （略） イ <u>異常な高温とならないこと。また、異常な高温となつた場合には、急速充電設備を自動的に停止させること。</u></p> <p>(13) （略） (14) （略）</p>

改正後	改正前
<p>2 (略)</p> <p>(火を使用する設備等の設置の届出)</p> <p>第47条 火を使用する設備又はその使用に際し、火災の発生のおそれのある設備のうち、次の各号に掲げるものを設置しようとする者は、あらかじめ、その旨を消防長又は消防署長に届け出なければならない。</p> <p>(1)～(9) (略)</p> <p><u>(10) 急速充電設備 (全出力50キロワット以下のものを除く。)</u></p> <p><u>(11) (略)</u></p> <p><u>(12) (略)</u></p> <p><u>(13) (略)</u></p> <p><u>(14) (略)</u></p> <p><u>(15) (略)</u></p>	<p>2 (略)</p> <p>(火を使用する設備等の設置の届出)</p> <p>第47条 火を使用する設備又はその使用に際し、火災の発生のおそれのある設備のうち、次の各号に掲げるものを設置しようとする者は、あらかじめ、その旨を消防長又は消防署長に届け出なければならない。</p> <p>(1)～(9) (略)</p> <p><u>(10) (略)</u></p> <p><u>(11) (略)</u></p> <p><u>(12) (略)</u></p> <p><u>(13) (略)</u></p> <p><u>(14) (略)</u></p>

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている急速充電設備に係る位置、構造及び管理に関する基準の適用については、この条例による改正後の芦屋市火災予防条例第13条の2第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

参 照

芦屋市火災予防条例の一部改正要綱

1 改正の趣旨

対象火気設備等の位置，構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令の一部改正に伴い，急速充電設備の全出力の上限を拡大するとともに，急速充電設備の設置に係る規定を整備するため，この条例を制定しようとするもの。

2 改正の内容

- (1) 対象火気設備等のうち，急速充電設備の全出力の上限を現行の50キロワットから200キロワットまで拡大する。(第13条の2関係)
- (2) (1)に伴い，急速充電設備の位置，構造及び管理に関する基準に次の規定を追加する。(第13条の2関係)

部位等	基 準
屋外に設ける急速充電設備（全出力50キロワット以下のもの及び消防長又は消防署長が認める延焼を防止する措置が講じられているものを除く。）について	<ul style="list-style-type: none">・ 建築物から3メートル以上の距離を保つこと。 (ただし，不燃材料で造り，又は覆われた外壁で開口部のないものに面するときを除く。)
コネクタについて	<ul style="list-style-type: none">・ 操作に伴う不時の落下を防止する措置を講ずること。 (ただし，コネクタに十分な強度を有するものは除く。)
充電用ケーブルを冷却するために液体を用いるものについて	<ul style="list-style-type: none">・ 液体が漏れた場合に，漏れた液体が内部基板等の機器に影響を与えない構造とすること。・ 液体の流量及び温度の異常を自動的に検知する構造とし，異常を検知した場合には，急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。
複数の充電用ケーブルを有し，複数の電気自動車等に同時に充電する機能を有するものについて	<ul style="list-style-type: none">・ 出力の切替えに係る開閉器の異常を自動的に検知する構造とし，異常を検知した場合には，急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。

部位等	基準
急速充電設備のうち蓄電池を内蔵している場合の蓄電池について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温度の異常を自動的に検知する構造とし、異常な高温又は低温を検知した場合は、急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。 ・ 制御機能の異常を自動的に検知する構造とし、制御機能の異常を検知した場合には、急速充電設備を自動的に停止させる措置を講ずること。

(3) 急速充電設備（全出力50キロワット以下のものを除く。）を設置しようとする者は、あらかじめ、その旨を消防長又は消防署長に届け出なければならないこととする。（第47条関係）

(4) その他所要の規定の整備

3 施行期日等

(1) 令和3年4月1日

(2) この条例の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている急速充電設備に係る位置、構造及び管理に関する基準の適用については、改正後の条例第13条の2第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。